

資料 中学校国語教科書における論理的作文教材の日中比較

著者	鄭 一葦，菊田 尚人，キム ボイエ，迫 将倫，成田 愛子，宮澤 優弥
雑誌名	人文学教育研究
巻	44
ページ	247-259
発行年	2017-12
URL	http://hdl.handle.net/2241/00150866

資料

中学校国語科教科書における 論理的作文教材の日中比較

鄭 一 葦 ・ 菊 田 尚 人
キム ボイエ ・ 迫 将 倫
成 田 愛 子 ・ 宮 澤 優 弥

1. 調査の目的

PISA 調査で示されているように、実生活の様々な場面で直面する課題に活用できる読解力を育成するために、国語教育においてテキストを利用したり、テキストに基づいて根拠を明確にししながら自分の意見を論じたりする学習が求められている（文部科学省，2004）。そのため、平成20年版国語科の学習指導要領では、論理的に思考し表現する能力が重視されるようになり、平成28年版の国語科教科書において、意見文などの論理的作文教材^①が積極的に取り扱われている。

一方、中国における語文科^②においても、「議論文」という文種の学習，そしてそれにかかわる「議論」という、論理的に自分の考えを述べる表現の手法に関する練習が重要視されている。2011年版「全日制義務教育語文課程標準」^③では、根拠に基づいた明確な観点を含んだ議論性文章を書くことが、中学段階の教育内容として設定されている。

日本と中国はともに漢字文化圏の国である。歴史、文化、教育制度などの面において共通点がある一方、作文教育の方針に相違点が見られる。言語活動を重視し、課題をこなすことを通じて作文を完成させる日本と違い、中国は個々の作文技法（例えば議論する観点を立てること、根拠を順序良く並べること）の訓練に重点を置き、そのための話題設定に力を入れている。

そこで本稿は、日中両国の現行の中学校国語科教科書を取り上げ、論理的作文教材がどのように扱われているのかを調査した。両国の作文教材を比較し、作文指導の相違点を知ることによって、今後の論理的作文教材のあり方について検討する際に、本稿は資料として活用することができると考えられる。

2. 調査対象

2.1 調査対象の教科書

取り上げた日本の教科書は光村図書（以下、光村と省略する）、教育出版（以下、教出）、東京書籍（以下、東書）、学校図書（以下、学図）、三省堂（以下、三省）が発行している、平成28年版の国語科教科書である。

中国の教科書も検定制を取っており、現在、検定を通過した中学校語文科教科書は八つ存在している。本資料は、その中でも採択率が比較的高い人民教育出版社（以下、人教版と省略する）、

江蘇教育出版社（以下、蘇教版）、語文出版社（以下、語文版）と北京師範大学出版社（以下、北師大版）が発行している教科書を取り上げた。2001年版「全日制義務教育語文課程標準」に従い編集された教科書は四社分あるが、2011年版課程標準が公表されてから教科書の改訂を完成したのは現在人民教育出版社一社分だけである。そのため、今回は、2001年版人教版、蘇教版、語文版、北師大版教科書と、2013年版人教版教科書を調査対象とした。

2.2 調査対象の領域

両国の教科書から、「文章表現の学習」を意図している教材を調査した。

具体的には、日本の教科書に関しては、「書くこと」領域の教材および関連の教材（教科書の中に「書くこと」の教材との関係が明示されているもの）、付録や資料の中に「書くこと」の領域に位置づけられているものを調査した。

一方、中国の教科書における「文章表現の学習」を意図している教材には、作文教材のほか、「総合性学習」⁴⁾教材がある。そのため、文章表現学習を独立させず、総合性学習の一環として位置づけさせる教科書もあれば、両方とも別々の独立した教材を編集している教科書もある。五種類の教科書における、文章表現学習にかかわる教材領域は以下の通りである。

2001年版：

人教版：「総合性学習」

北師大版：「総合性学習」

蘇教版：「写作⁵⁾」＋「語文実践活動」＋「文章修正の訓練」＋「主題活動」

語文版：「総合性学習—主題探求学習」＋「写作」

2013年版：

人教版：「総合性学習」＋「写作」

本資料は、中国の教科書における上記のすべての領域を調査領域とした。

2.3 教材抽出の基準

日本の教材については、『中学校学習指導要領解説国語編』（2008）の中で、中学二年生「書くこと」の言語活動例に示されている「イ 多様な考えがでる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書く言語活動」に当てはまる教材を抽出した。意見文教材および意見文関連の練習教材が多いが、自分の考えを述べさせる新聞記事や小論文などの教材もある。

中国の教材については、2011年版課程標準の中で学習の目標として要求されている「議論性文章」に当てはまる教材を抽出した。ただし、中国の教科書において、技法を中心とした教材や総

合性学習のような文章の種類、形式に言及していない教材が多い。そのため、a.「議論文」を書くことを明示している、b.明確に観点・主張（感想ではない）を述べることを要求している、c.考えを支持するために根拠を上げることが要求している、のいずれかの条件を満たしている教材を抽出した。

3. 調査した観点および基準

上記した目的を達成するため、以下の課題を設定した。

課題Ⅰ 論理的な作文学習について、両国の教科書は何を意図していくつの教材を何学年に配置しているのか。

課題Ⅱ 課題Ⅰの文章学習について、具体的に文章の何が教えられているのか。

課題Ⅲ 課題Ⅱの内容はどのように教えられているのか。

これらの課題に応じて、調査した内容は以下の通りである。

- ・教材の配置学年、学習内容などの概要
- ・学習する文章の様式と内容
- ・書くプロセスにおける各段階の指導

以上の内容に応じて、さらに細かく調査する観点を設定した。

まずは課題Ⅰについて、すべての教科書から抽出した教材の概要、つまり①学年・巻、②教材名、③ページ数、④学習目標・ねらい/学習内容、をまとめた。調査結果は表1にまとめた。

「④学習目標・ねらい/学習内容」について、日本の教科書において、学習目標ではなく、教材説明のところに作文教材との関連性が示されている教材がある。これらの補足的な教材には、×を記入したうえ、()の中で教科書の教材説明を書いた。中国の教科書においては、全ての教材に学習目標が書かれているわけではない。そのため、稿者が読み取った教材の主題を記入した。なお、一つの教材に複数の作文課題があることがあるため、教材数と課題数は必ずしも一致しているわけではない。

そして、課題ⅡとⅢを明らかにするために、清道（2013）が日本の「書くこと」の教材を心理的プロセスの視点から分析するときに提示した、「プランニング（テーマ・材料・構成）、記述、推敲、交流」というプロセスを参考にして、書くことの各段階を設定した。さらに四段階の中に、本研究の目的に照らして、特にプランニングについては稿者は細かく調査項目を設けた。

そこで、プランニング、記述、推敲、交流という四つ段階において、調査項目としては、プランニング（⑤文章の種類、⑥課題の範囲、⑦テーマの題材、⑧課題の内容、⑨書く課題提示の仕方、⑩テーマに関する指導、⑪模範文の有無、⑫材料の内容、⑬取材に関する指導、⑭文章の構成、⑮構成に関する指導）、記述（⑯記述に関する指導）、推敲（⑰推敲に関する指導）、交流（⑱書くまでの交流に関する指導、⑲書いた後の交流に関する指導）、を設定した。調査結果は表2にまとめた。

この後、それぞれの課題に関して必要となる説明を記す。

課題Ⅱにかかわる項目は⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑭で、言及している場合は内容を記入し、言及していない場合は×を記入した。

「⑤文章の種類」について、教材の中で言及されている文章の種類、あるいは課題要求として提示されている文章の種類を記入した。

「⑥課題の範囲」について、話題が限定されているかどうか調査した。話題が明確であり、話題の中の複数の立場から一つを決めさせ、意見を述べさせる場合は○、生徒に自分で話題を見つけさせる場合は×と記入した。この項目は表2において、「話題限定」にした。

「⑦テーマの題材」について、話題を生活、社会、読書関係の三種類に設定した。他人の言説、理論、あるいはテキストに対して自分の考えを述べる時の題材は「読書関係」とした。課題要求から明確に題材を判断することができない場合、一つの課題に複数の題材領域を記入した。

「⑧課題の内容」について、それぞれの教材が学習目標・ねらいを達成するために設定した学習課題の内容を調査した。ただし、書く課題以外にも、文章表現力を育てるための読み比べといった内容が考えられる。このような活動も調査対象とした。

「⑨書く課題提示の仕方」について、書く課題が提示されている教材において、最終的に「何を書くか」という、生徒に書かせる文章の内容がどのように示されているかを調査した。材料に応じて書かせる場合は材料の種類を記入し、ただ「文章を書いてください」と指示した場合は「書く教示」と記入した。

「⑩模範文の有無」について、ある場合は○、ない場合は×で表記した。

「⑫材料の内容」について、意見を支える材料である根拠の類型を調査した。模範文がある場合は模範文で挙げられた根拠を調査した。根拠は大きく「事実」と「推論」の二種類に分けた。「事実」については、自分の生活経験から挙げた根拠は「経験」、調査活動を行い、調査したデータや事例は「資料」とした。事実ではなく、他人の言説、理論、あるいは課題が提供している材料を用い、分析し推論する場合の根拠は「推論」とした。ほかの説明がなく、ただ「根拠を上げてください」と指示した場合は「教示だけ」と記入し、それすら要求していない場合は「言及なし」と記入した。この項目は表2において、「根拠の類型」として提示した。

「⑭文章の構成」について、模範文がある場合は模範文の様式を記入した。三段構成は「序論、本論、結論」という構成で、ほかの説明がない限り、「結論→事例・説明→結論」構成は「双括」型とし、「問題提起→事例・説明→結論」構成は「尾括」型とした。日本のすべての教材には模範文が載っている（三省堂10番教材には模範文が二つ載っている）ことに対し、中国の教材には模範文がほとんどない。課題要求のところ、様式について何も言及していない場合は「言及なし」と記入した。「議論文」や「議論性文章」などの文種に言及した場合、これらの文種が成立するのに、「論点、論拠、論証」という三つの要素が要求される。このことはある程度で様式に関わっていると考えられるため、構成の箇所に文種を記入した。この項目は表2において、「文章の型」として提示した。

課題Ⅲに関する指導の項目は⑩⑬⑮⑯⑰⑱⑲である。これらの項目の分析は、清道（2013，pp. 139～140.）が提示した分析の枠組みを用いる。

「⑩テーマに関する指導」，つまり書き始める前に何を主題として書くか考えることについて，(a) 具体的な活動（話し合う，思いっただけメモする，等）や考える観点が示されている，(b) 複数のテーマ例が示されている，(c) 具体的な活動・観点とテーマ例がともに示されている，(d) 「テーマを考えよう」という教示だけであるか，テーマ選びに関する言及がない，という4段階で評価し，a段階は◎，b段階は○，c段階は△，d段階は×と記入した。

「⑬取材に関する指導」，つまり書くための材料を集めることについて，(a) 具体的な活動（調べる，話し合う，等）や材料集めの観点が示されている，(b) 集めた材料のメモ例やカード例が示されている，(c) 具体的な活動・観点とメモ・カードがともに示されている，(d) 「材料を集めよう」という教示だけであるか，材料集めに関する言及がない，という4段階で評価し，a段階は◎，b段階は○，c段階は△，d段階は×と記入した。

「⑮構成に関する指導」，つまり材料をどのように組み立てるかを考えることについて，(a) 具体的な活動（カードを並び替える，話し合う，等）が示されている，(b) 構成例が示されている，(c) 具体的な活動と構成例がともに示されている，(d) 「構成を考えよう」という教示だけであるか，構成に関する言及がない，という4段階で評価し，a段階は◎，b段階は○，c段階は△，d段階は×と記入した。

「⑯記述に関する指導」，つまり実際に書く上での表現の仕方や書き方について，(a) 具体的な注意点が示されている，(b) 「工夫しよう」，「分かりやすく書こう」等の抽象的な教示だけである，(c) 「書こう」という教示だけであるか，記述に関する言及がない，という3段階で評価し，a段階は○，b段階は△，c段階は×と記入した。

「⑰推敲に関する指導」，つまり文章を書いた後に見直すことについて，(a) 具体的な観点が設定されている，(b) 「見直そう」，「推敲しよう」等の教示だけである，(c) 推敲に関する言及がない，という3段階で評価し，a段階は○，b段階は△，c段階は×と記入した。

「⑱書いた後の交流に関する指導」，つまり書き上げた文章を使った交流活動や相互評価を行うことについて，(a) 具体的な評価基準や感想例が示されている，(b) 「読み合おう」等の教示だけである，(c) 交流に関する言及がない，という3段階で評価し，a段階は○，b段階は△，c段階は×と記入した。ただし，本資料は文章を書くために行われた交流活動，つまり書くまでの交流も考察の対象とするため，「⑱書くまでの交流に関する指導」という項目も設けた。この項目について，(a) 具体的な観点が設定されている，(b) 「意見交換しよう」等の教示だけである，(c) 交流に関する言及がない，という3段階で評価し，a段階は○，b段階は△，c段階は×と記入した。

なお，教材に書く課題がない場合，調査できない項目は空欄にした。

4. 調査結果

調査の結果は以下の通りである。

表1 日中学校国語教科書における論理的作文教材の概要

教科書 会社	学年 ・ 巻	教材名・ 活動主題名	ページ 数	学習の目標・ねらい
日本				
学図 H28	2	1. 活動を考える 効果的に伝える	1	×
		2. 意見文を書く	4	意見文の良さを発見しあう。
		3. 意見文を読みあう	2	(1)具体例や体験を根拠にして、意見文を書く。(2)互いに読みあい、文章の良さを発見しあう。
教出 H28	2	4. 新聞の投書記事を書く	2	(1)自分の意見（立場）にそって投書記事を書く。(2)互いに読み合い、文章の表現を高める。
		5. 意見文を読みあう	2	(1)相手の主張に対する意見文を書く。(2)互いに読み合い、文章の表現を高める。
		6. コマ漫画から意見文を書く	6	(1)複数の考え方があある問題について、意見文を書く。(2)自分の主張の根拠を示して、文章を書く。
三省 H28	3	7. 図表などの資料から意見文を書く	2	(1)図表を読み取り、条件を踏まえ、意見文を書く。(2)引用の仕方や論理の展開に注意し、文章を書く。
		8. 思いや感覚に向き合い、考えを確かめる	4	(1)自分で日常生活の中から課題を決め、問いと対話によって、自分の考えをまとめる。(2)事実や体験から導き出した自分の考えを、根拠を明確にして書く。
		9. 推論と対話で考えを広げる	6	(1)自分の立場や考えとともに、それを支える事実や事例を明らかにして、文章の構成を工夫する。 (2)読いた文章を読み合い、互いの主張や表現の仕方について意見を交流して、自分の考えを広げる。
東書 H28	1	10. 論理の展開を工夫して説得力を持たせる一 小論文	6	(1)論理の展開や引用の工夫を工夫して、説得力のある文章を書く。 (2)読いた文章を読み返し、語句の使い方、構成、引用の仕方などに注意して文章全体を整える。
		11. 根拠を明確にして書く	5	(1)読いた文章を読み返し、語句の使い方、構成、引用の仕方などに注意して文章全体を整える。 (2)読いた文章を読み返し、語句の使い方、構成、引用の仕方などに注意して文章全体を整える。
		12. 反対意見を想定して書く	6	(1)自分の立場を明確にして、わかりやすい構成で意見文を書く。 (2)意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、ほかの立場への反論を盛り込んだりする。
光村 H28	2	13. 練習 意見文の説得力を考える	1	×
		14. 根拠を明確にして意見を書く一意見文を 書く	4	(1)日常生活の中から課題を決めて、情報を集め、自分の意見を持つ。 (2)自分の意見とその根拠を明確にして、文章構成を工夫して書く。
		15. 練習	1	×

		推読して文章を解える		学習内容
中国				
人教版	七下	1. 自分の観点を述べよう	3	(1)物事に関する自分の意見を持つ。(2)叙述、描写を主とした文章の中で、自分の考えを加え、議論という手法を練習する。
2013	九下	2. 個性と創造	3	文章を書くとき、個性を表すよう、創造性のある内容や形式を工夫する。
人教版	八上	3. 世界はいつ平和になれるだろう	7	(1)資料収集を通じて、社会問題に目を向け、平和意識を育てる。 (2)活動において総合的に読み書き、聞き話す能力を運用する。
2001		4. ディベートしよう	3	(1)ディベートを行うことで資料を集め、自分の観点をはっきりと発表する。 (2)ディベートを通じ物事を正反両面から考える思考力を育て、自分の意見を述べる文章を書くとき運用する。
		5. 資料の集め方	3	(1)資料の様々な集め方を学ぶ。(2)学んだものを運用して資料を集め、文章でまとめる。
	九上	6. お金、誰にでも共通する話題	5	(1)お金に対する持つべきの態度を考える。(2)自分の立場を決め、意見を述べる文章を書く。
	九下	7. 私知知っている孔子と孟子	3	(1)孔子と孟子についての理解を深める。(2)現代で古代の思想について考え、自分の観点を文章で書く。
暨大版	八下	8. 簡単な議論文を書く	3	議論文の特徴を知り、議論文の書き方を学ぶ。
2001	九上	9. 総合学習と探究 第五單元	4	×
	九下	10. 総合学習と探究 第四單元	5	×
語文版	八上	11. 議論文を書く	1	議論文を書く。
2001		12. 総合性学習-主題探究学習 新聞記事	15	(1)新聞記事やインターネット取材について探求し、理解を深める。 (2)メディア上の情報について自分で判断し、考えたことを文章で書く。
	九上	13. 一事一議	1	ある事件、あるいは社会現象(限定なし)に対する自分の考えを述べる。
		14. 総合性学習-主題探究学習 神話	7	(1)神話について調査し、理解を深める。 (2)調査したものをもとめ、文章でまとめる。
北師大版	八上	15. 思想の美	6	(1)自分の観点を持つ重要性を知る。(2)「議論」という手法を用い、文章で自分の観点を述べる。
2001	八下	16. 機趣	4	知恵を働かせ、面白さを表現できるよう、生活を振り返り、文章で自分の意見を述べる。
		17. 理趣	3	(1)うまく他人を説得する方法を学ぶ。(2)学んだものを運用し、文章を書きディベートする。
	九下	18. 論題と論点	8	議論的文章における論題と論点の重要性を知り、よく気を付けて文章を書く。
		19. 証明と反論	7	(1)証明と反論の方法を学ぶ。(2)証明と反論を用い、文章を書く。

表2 日中学校国語教科書における論理的作文教材についての調査結果

教科書 会社	教材 番号	文章の 種類	テーマ				模 範 文	材料		構成		記 述	推 導	交流 前 後	
			話題 限定	題材	課題の内容	書く課題提示の仕方		指導	提供の類型	指導	文章の型				指導
日本															
学習 社 H28	1				意見を持ったとき、いろいろな視点から分析、整理して考 えることの大切さについて考える。										
	2	意見文	○	生活、社 会	自分で題材を見つけ、意見文を書く。	テーマ例を提示する。	◎	○	事実（経験）	○	三段構成（尾括）	△	○	×	○
教出 社 H28	3	意見文	○	社会、説 教関係	①「ら抜き言葉」について、意見文を書く。 ②意見文を読みあう。	テキストの学習の手引きと しての書く教示を提示する。	○	○	事実（資料、 経験）	×	三段構成（双括）	△	×	△	×
	4	新聞 記事	×	生活、社 会	新聞などから課題を見つけ、自分の考えを持ち、採集記 事を書く。	書く教示だけを提示する。	◎	○	事実（経験）	△	三段構成（双括）	◎	×	△	×
	5	意見文	○	社会、説 教関係	①テキストの作者の主張に対する意見文を書く。 ②意見文を読みあう。	テキストの学習の手引きと しての書く教示を提示する。	○	○	事実（経験）、 推論	×	三段構成（双括）	△	×	△	×
	6	意見文	○	生活、社 会	四コマ漫画から課題を見つけ、意見文を書く。	四コマ漫画を二つ提示する。	◎	○	事実（資料、 経験）	○	三段構成（尾括）	△	△	△	○
	7	意見文	○	生活、社 会	図表から読み取った課題を意見文に書く。	図表を提示する。	○	○	事実（経験）	×	三段構成 （問題提起→主張・意 見→意見の根拠）	△	○	△	×
	8	意見文	×	生活	自分で日常生活の中から課題を決め、問いと対話によっ て、自分の考えをまとめ、根拠を明確にして意見文を書 く。	グループ活動でテーマについ てディスカッションする。	○	○	事実（経験）	○	二段構成（体験→意 見）	△	○	×	○
三省 社 H28	9	主張文	○	生活	防災学習に関する課題文を読み、その内容に基づいて主 張文を書く。	課題文とメモ例を提示する。	◎	○	推論	○	三段構成（双括、反 論を含め）	△	○	×	○
	10	小論文	○	生活	友誼について、自分の考えをまとめ、論理の展開や引用 の仕方を工夫して、説得力のある文章を書く。	参考できる他人の言説とメ モ例を提示する。	◎	○	推論	◎	①三段構成（尾括） ②四段構成（起承転 合）	△	○	○	×

[illegible]

6	×	○	社会	お節に関する話題（たとえばお節の量で人が短か しているかどうかを判断する）から一つを選び、自分の 観点を述べる文章を書く。	テーマ例を提示する。	◎	×	×	事実（経験）	×	言及なし	×	△	×	○	×
7	議論文	○	読書関係	集めた孔子と孟子の資料と、彼らの思想に関する議論を 踏まえ、二人の言論から一文を選んでタイトルにし、議 論文を書く。	活動を行い、書く教示を提示 する。	○	×	×	言及なし	×	議論文	×	△	×	○	×
8	議論文	○	社会	「現在もつとも提唱すべき伝統的な美德は何だと思 うか」について、議論文を書く。	書く教示だけを提示する。	○	×	×	教示だけ	×	議論文	×	○	×	×	×
	議論文	○	生活、社 会	教団様が提示している（物語的な）材料を読み、自 立場を決め、議論文を書く。	材料を提示する。	○	×	×	事実（経験）	×	議論文	×	×	×	×	×
9	議論文	○	生活、社 会	「○○から」や「○○を論じる」をタイトルとして（○ ○の内容は提示されている古典のテキストの語句から、 一つを選び、簡単な議論文を書く。	タイトルを与える。	○	×	×	教示だけ	×	議論文	×	×	×	×	×
10	その他 （経験）	○	読書関係	諸徳が「制御区」を書くときの心の矛盾について、 自分の考えを書く。	書く教示だけを提示する。	○	×	×	言及なし	×	言及なし	×	×	×	×	×
	議論文	○	読書関係	教科書が提供しているいくつかの文（古典のテキストの 語句）を支持できる事例を探し、それを分析し議論文を 書く。	書く教示だけを提示する。	○	×	×	事実（資料）	×	議論文	×	×	×	×	×
11	議論文	×	生活、社 会	今までの人生の中で、生じた主張や考え（限定なし）、お よびそれらを支持する根拠を書く。内容は自由である。	テーマ例を提示する。	△	×	×	事実、推論	×	議論文	×	△	×	×	×
12	論文	×	社会	新聞記事の内容を批評する、あるいは新聞で報道されて いる問題を探究する。	様々な探求の活動を行い、成果 の提示として書かせる。	◎	×	×	事実（資料）	○	言及なし	×	△	×	○	×
13	×	×	生活、社 会	ある事件、あるいは社会現象（限定なし）に対する自分 の考えを述べる。	書く教示だけを提示する。	×	×	×	言及なし	×	言及なし	×	○	×	×	×
14	小論文	×	読書関係	神話について調査したことを小論文でまとめる。	様々な探求の活動を行い、成果 の提示として書かせる。	◎	×	×	言及なし	×	言及なし	×	×	×	×	△
15	スピー チ原稿	○	生活	提示されている課題文の観点に対して、自分の意見を述 べるスピーチ原稿を書く。	課題文を提示する。	○	×	×	言及なし	×	言及なし	×	△	×	×	△
16	×	×	生活	テレビやパソコンなど、日常において便利をもたらして	テーマ例を提示する。	◎	×	×	言及なし	×	言及なし	×	△	×	×	△

5. 今後の課題

以上をまとめると、日本の論理的文章教材は、一つの完全なる文章を完成することを目指し、ある事柄や社会問題について、生徒に自分の主張を、根拠を上げて書いてもらうものが多い。それに対し、中国の教材では、文章だけではなく、文、段落、そして話し言葉も考慮する必要があるスピーチ原稿など、様々な形態の練習があり、日常生活や読書から話題が取り上げられることが多い。両者の差異は何を意味し、どう活かしていけるかに関しては、今後の課題として検討していきたい。

注

- (1) 用語に関して、教科書によって「教材」や「学習材」と呼ばれる場合があるが、本研究では統一して「教材」という語を用いる。
- (2) 中国における、日本の国語科に相当する科目である。本資料では、「両国の国語科」について言及する時、「国語科」という言葉は日本の「国語科」と中国の「語文科」両方を指す。
- (3) 中国の課程標準は日本の学習指導要領に相当するものである。2001年に課程標準が公表されてから、10年間に一度改訂されている。
- (4) 2001年版課程標準によって新しく開設された、語文科における聞く・話す・読む・書く技能が総合的に運用できる言語実践活動の領域である。
- (5) 中国において、学校で「児童・生徒が作文を書く」行為に対して、より一般性を持ち、日常、社会生活の中で「人が文章（詩も含め）を書く」行為は「写作」(writing)と呼ばれている。学校教育において、「写作」と「作文」は両者とも使われているが、カリキュラム上、中学段階で日本の「書くこと」に相当する領域として設けられているのが「写作」である。したがって、作文の教材名として、「写作」が使われることが多い。本稿は「写作」と「作文」を厳密に区分しないことにし、引用以外は「写作」を使わない。

【引用参考文献】

- 清道亜都子（2013）『書くことの教育における理論知と実践知の統合』溪水社
- 浜本純逸監修・田中宏幸編（2016）『ことばの授業づくりハンドブック/中学校・高等学校「書くこと」の学習指導—実践史を踏まえて』溪水社
- 丁秋娜（2015）「日中共通国語科教材の教材化と指導法に関する研究」早稲田大学大学院教育学研究科博士論文
- 中華人民共和国教育部制定（2012）『義務教育語文課程標準（2011年版）』北京師範大学出版社
- 張榮華・方明生（2009）「調査作文的比較、分析と反思（二）—初中語文教材的中日比較」『山西師大学報：社会科学版』2009年3月第36巻第2期
- 文部科学省（2004）「読解力向上に関する指導資料 — PISA 調査(読解力)の結果分析と改善の方向—」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05122201.htm（最終アクセス

ス 2017/9/1)

文部科学省（2008）『中学校国語科学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社